

令和5年度第2回栗東市社会教育委員会議 会議録

日 時 令和6年2月2日(金)10:00~11:42
場 所 なごやかセンター 集会室
出 席 奥野委員長、奥村副委員長、山本委員、多々良委員、三好委員、川村委員、寺田委員、
木村委員、西尾委員、川那邊委員、大屋委員、田中委員、飯村委員、大住委員
欠 席 朽木委員

関係課・事務局出席

安土教育長、小林教育部長、銚廣所長（少年センター所長）、松田副所長（自然観察の森副所長）、松浦課長（人権教育課長）、福田課長（スポーツ・文化振興課長・歴史民俗博物館館長）、大西副館長（歴史民俗博物館副館長）、西村館長（図書館館長）、赤井課長（生涯学習課長・自然観察の森所長）

事務局：橋内課長補佐、原

1. 開会
2. 市民憲章唱和
3. あいさつ 奥野委員長・安土教育長
4. 案件

(1) 令和5年度栗東市社会教育関係事業報告について 資料 1

進行：奥野委員長

資料 1に沿って説明

生涯学習課(赤井課長)	生涯学習推進事業、青少年教育推進事業、青少年対策（育成）事業
少年センター(銚廣所長)	非行防止・啓発事業、広報啓発、広域犯罪への警戒と防止啓発事業、関係機関や団体との連携と協働
自然観察の森(松田副所長)	各種イベントの実施、施設等の安全対策など、園・学校との連携及び諸団体への支援・協力、森のPR活動、再来園者を促す取組み
人権教育課(松浦課長)	社会同和教育、人権教育指導、同和教育指導
スポーツ・文化振興課(福田課長)	文化財保護事業、文化振興、スポーツ振興
歴史民俗博物館(大西副館長)	展覧会開催事業、市民参画推進事業、博学連携事業、博物館施設の適正管理
図書館(西村館長)	図書館サービス事業、その他事業、重点事業

(委員長)

各課からの報告ありがとうございます。

皆様からのご意見ございましたらちょうだいしたいと思います。

(委員)

冒頭、生涯学習事業のお話していただいた中で、課題の中に、「連携を強化していく」であるとか、「工夫する」とか、「ニーズを把握」するとか、「働きかけていく」とか、そういうような課題がたくさん挙げられていたのですが、この課題ってどこで話し合われているのかなということと、それが本当に来年度以降の事業に、その課題が活着しているのかってというのがちょっとわからなかったんで、そこの説明がいただきたかったということと、もう 1 つは、歴史民俗博物館の報告の中を見ていると、「学芸員の補充がない」とか、「職員が少ない」とか、「任用職員の数が足りない」とか、マンパワー不足が課題として挙げられているのですが、例えば、どれもが大切な事業だとは思いますが、取捨選択して事業を見直すとか、そのあたりを考えられているのかどうかというのを教えていただきたいなと思います。

(委員長)

ありがとうございます。

(生涯学習課)

生涯学習課の資料を見ていただいたら、おわかりいただけると思いますが、かなり紙面を多くとらせていただいておりますので、少し省いた部分もございます。

もちろん課の事業といたしましては、課の中で、課題、その辺りにつきましては、当然議論をさせていただいておりますし、また実行委員会形式なり、そういった、団体で行っているところについてはそれぞれの実行委員会なり、そういった団体での役員会なり、そういったところで事業が終わった後に、それぞれ検証させていただく中で、見直し等、次年度に向けて、また次回に向けて、検討しているところでございます。

ご指摘いただきましたとおり、次回からできるだけ、具体的に書ける部分については、記入させていただき、改善させていただきたいと思っております。

(委員)

ありがとうございます。

今言っていたように、次回からこの課題に対して、どういう対策をとったのかっていうのを言っていたら、我々の方からも、「こういうことされたらどうですか」というような意見を述べられる可能性もあるので、もう少し具体的をお願いしたいと思います。

(委員長)

ご指摘ありがとうございます。

(歴史民俗博物館)

人手が不足しているというのは、採用がなかなかされていないということで、美術工芸品を担当している学芸員が、補充されてないところが課題だと思っておりますが、その辺については人事課とも話をしまして、課題解決に向けて話しております。

また、ご指摘がありましたような、事業の見直し等につきましては、来年度、現段階の本数などを

少し絞っていかうかというふうに考えています。

また、博物館教室、昔の暮らしというので、こちらの方は 1 つの学校がこられましたら、大体 3 人程度、職員を出して対応しており、多くの人手を要しておりますので、栗東市内の小学校を優先的に受け入れながら、それに加えて、できる形で市外の学校も受け入れていくという形で、対応するよう考えています。

(副委員長)

歴史民俗博物館すごくいいなと思うのです。

他の市にこういう施設はあまりないので、とてもいいものを作って、すごくいい催しもしている。

とても歴史民俗博物館に特化しているので、興味のある人はそんなたくさんはいないんですけど。子どもたち対象というのも、学校と連携しているということで子どもたちも行きますけど。

あまり縮小すると本当に来なくなるなっていうのがあって、図書館にもよく行くのですが、図書館の方に子どもや大概の人が足向いています。歴史民俗博物館は停まっている車が少なく、何か寂しい思いもするんですけど、でも内容的にはすごくいいものをされていて、やっぱり是非とも学芸員さんは教育委員会あげて 1 名、市長の方に言っていただいて。それと、小学校の子どもたち対象だったら、ボランティアの市民学芸員さんがおられるということですので、それを募ると、案外高齢の方でそういうことが好きな方がおられて、近所でも何かボランティアみたいなのをしたいと仰ってる方もおられるので、少し広報すると、「まだやるよ」って、1 名でも 2 名でもおられるではないかなと思いますので、またその点よろしくお願いします。

(委員長)

続きですが、今の昔の暮らしに別に特化してしゃべっているわけではないのですが、学習要綱、カリキュラム等が何かどんどん変わっていていますね。

委員の方から、地域のボランティアとおっしゃってくださっていて、もう本当に何年前は、私も小学校の校区で関わらせていただいていたのです。

昔の、私が本当に子どもの頃の乳母車を持って行ったりとか、アルミの弁当箱持って行ったりとか、「今こんな作っているけどこんなやねんで」って火鉢やらとかもいろんなものを持って行って、火鉢で餅を焼いた年もありました。

いろんな経験をさせてあげたいですが、本当に学習の形も変わっていていますね。ですから本当に今、ボランティアの方、人材が、すごくいろんな知識をお持ちの方がもう地域にはたくさんおられます。その方たちを、この歴史民俗博物館だけではなく図書館にしても、生涯学習やすべてにおいて、埋もれている人材を発掘して、そして、地域の方に、今学芸員さんが不足っているのは、専門職なのでなかなか難しいところもあるんですけど、本当に地域は宝の山だと思います。

そういう方たちが少しでも学校なり、こういう施設に出向いていただいて、また子どもたちがさらに成長していけるように関わりを持っていただければ、これがもう本当に社会教育と繋がっていくのではないかなと思っていますし、教育要綱が変わったから、学習要綱が変わったからっていうのではないですけど、また違ういろんなところでのイベントの中でとかの関わりも大事なかなと思っていますので、今各課、いろいろ報告していただきましたけれども、そんな中でも、専門の講師さんも大切ですけど、地域の方にアウトリーチというのも 1 つの方法かなとも思っております。

プロの方ではなく本当にそういった、昔の歴史とかもお話をしてくださる方はたくさんいらっしゃいますので、また各課、いろいろ事業の計画をされるときに、そういう発掘の部分でもお考えいただけたらと、私は少し感じましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

他に何かご質問とか。

(委員)

今、委員長から、ボランティアの養成みたいなことをおっしゃってくださって、本当にそれも高齢化の時代を迎えていますので、知識を持った方がたくさんいらして、その方たちが市の事業とかに協力して下さったらますますいいなっているのは、1つ思うことです。

専門の職員さんがやっぱり退職されたことで、事業や展覧会を開くのに2人の学芸員さんでその事業をやらなくてはいけなかったというのは事実だし、その中でも今の収蔵品の仏像の展覧会も見せていただきましたけれども、本当に努力なさって、皆さんが見て満足のいくような栗東市にある仏像を綺麗にといいか、よくわかるように展示されているのを見たときに、やっぱりボランティアさんを養成していく、市民学芸員さんの方たちが頑張っていてくださるのもよくわかりますけれども、学芸員さんをやっぱりぜひ増やしてあげて欲しいなっているのを心から思ひましたので、私も栗東市の1市民として、本当のところの館で預かっておられる宝を守っていて、市民の方にお知らせしていこうと思うときにやっぱり専門職の方のそれがなかったらなかなかお知らせしていくことができませんので、是非そこら辺は、栗東市の財政が裕福でないことは市民として分かっていますけれども、どこにまわしていくかというのを考えるときに、器も守っていかないといけないし、30年も経った器を守っていくというのも大変だし、でもそれも考えていかないといけないけれども、その中にある宝物をもっと市民に知らせていってくださる大元となる学芸員さんが充実していくことがすごく大事だと思ひましたので、是非そこら辺は教育長も居てくださることですし、考えていっていただきたいと思ひまして、やっぱり文化とか芸術とかというのは、食のあとの次になるかもしれませんが、生きていくのにはとっても大事だと思ひるので是非お願ひしたいと思ひました。以上です。

(委員長)

歴史民俗博物館さんの学芸員だけでなく、自然観察の森も子どもたちがどんどん来ていただいてやっぱり専門的なことをお話しして下さっているのかと思ひます。何かクラフトをするにしても地域の方にご協力いただいたり、大学生の方にご協力いただいたりとかということもあると思ひますし、人材もそして職員さんもまた市の方で何とかしていただけたらなと思ひます。

歴史民俗博物館の方から何かありましたら。

(歴史民俗博物館)

まずはボランティアの意見ですが、市民学芸員の会ですけれども、35ページに少し書いていますが、輪読会というのは昨年度からリニューアルしまして、地域にゆかりのある資料を読み始められまして、その関係で年齢層が少しリフレッシュされました。数年前まで市民学芸員の会さんからボランティアで博物館教室を手伝っていただいたりしたこともあるのですが、高齢化で現在中断してありましたところ、こうした状況を受けて来年度の活動として、またボランティアで入らせてもらえたら

というようなことも聞いたりしております。

また来年度、そういう形で委員長がおっしゃってくださったように、再びボランティアでお助けいただけることもあるのかなというふうに少し期待をしております。

博物館教室の方は、委員長がおっしゃったように、博物館教室「昔の暮らし」というのは学習要領に基づいて、それに沿った形でこちらの方が用意しているものです。

こちらの方も指導要領を見ながら内容を改定したり、「昔の暮らし」の学習で始まったのですが、数年前の改訂から「市の様相の移り変わり」という単元になっているということを受けまして、栗東市のまちの移り変わりに即したような、それでいて、中島住宅も使ってもらえるように改定しておりますので、そのような形で対応しております。

(委員長)

ありがとうございます。

他に何かご質問や、もう少し詳しく聞きたい方はおられますか。

(委員)

今のお話を聞いているときに、どうしても生涯学習と言う割には、子どもをどうしようか子どもをどう参加させようかということが結構多い。

もっと上をねらってみたらどうかなって思うのですよ。

人数を上げるときに小学校の生徒たちを呼ぶとかということではなく、ずっと暇をしている年齢層の高い人たちいっぱいいるわけです。

毎日日曜日みたいな人がたくさんいるわけですから、そういう人たちに来ていただくイベントの作り方というのも考えていったら、もう少し入館数が増えたりするのではないかなと思ったりもしています。

あとはアピールの問題で、例えば琵琶湖博物館の歴史のことに、栗東の歴史のことの違いがどこにあるのかと、琵琶湖博物館に1回行ってしまったら、栗東なんか行ってもしょうがないじゃないかっていうことにならないように、栗東市であれば栗東市である。こんなことが琵琶湖博物館とは全然違う。こんなコンパクトなところでこんなことができているんだっていうことを、アピールしていくということがものすごく必要だと思っていて、僕は写真家やっているのですが、僕の一番弟子が小さな水族館を比良山の麓に作って、もう年がら年中テレビには出る、新聞には紹介されるっていうことで、例えばそのグッズを売る。専門家を呼んで来て、毎月1回、自然についての講演をしていただくとかということをして、いつも新しいこと新しいことを始めていくと、そこにまた新しい人が来る。その人がまた口コミでそういうイベントがあるということをして、みんなにまわして話してくれるとSNSで広がると、また人が増えるということで循環して行って、人が増えてくるということがあるので、歴史民俗博物館、図書館、栗東自然観察の森というものは、市の事業ではあるのしょうけど、アピールの仕方にもう少し今風、今の事実、SNS、インターネットなどを活用して、なるべく多くの人に、年齢を小学生とは限らず大人の人たちでも楽しんでいただけるようなイベントを発信していくということが必要なんじゃないかなと思います。

これから子どもはどんどんどんどん減ってくるわけですから、そうすると子どもばかりを当てにしているのではなくて、これから先を見て、40代50代60代70代の人でも来て楽しめるよう

なイベントを考えていくということが大切ではないかなと思います。

(委員長)

ありがとうございます。

視点を変えてからのご意見ありがとうございます。

本当に今おっしゃったように、アピール次第では、人が増えてくるし、「1 回行ったからもういいやではなくてまた行きたい。今とっても楽しかったし、ワクワクしたし、今度何してくれるのだろう」という、そういう事業が人ごとつないでいって継続される事業ではないかなと思います。

本当にワクワク感を子どもも大人も世代を超えた事業の展開が必要かなと思われま

(副委員長)

少年センターの 18 ページ③に、無職少年への就学や就労相談の実施で、保護者、学校関係機関からの依頼を受けて支援とか指導に取り組んでいるということですが、多くありましたか。何件ぐらいありますか。

(少年センター)

数は数件です。

ここでの無職少年というのは、一番の対象は非行傾向のある、例えば、高等学校中退して就学も就職もしていない子が次の就学なり、就職を目指すという、そういうお手伝いをさせてもらうというか、そのような支援になります。

大抵は高等学校さんもよく頑張っておられて、中退をほぼ出してない、そんな状況が今ありますので、滋賀県の高校はよく頑張っているなという感じです。

(副委員長)

栗東中学校から家へ帰るときにファミリーマートの前でたくさんたむろしていて、大丈夫かなと、昔は本当に私も現役のときには教え子が大分警察にお世話になった生徒もおりまして、あの子たちもここで出会ったなと思いつつながら、なにかものすごく心配するのですが、現在どうなのかなと思って、それを聞いてちょっと安心して「頑張ってる」とか声掛けたらいいのですが。

(委員長)

SNSでの性被害を少し仰ってくださっていましたが、最近テレビでサッカー選手もそうなんですけど、お笑いタレントの方も性被害のことで、よくマスコミに取り上げられていますけど、栗東市の方では、性被害的なことで相談とか、件数としてはそんなにないとは思いますが、ないことを願いますけど、やっぱりあるのですか。

(少年センター)

そういう事件なり事案の取り扱いは、少年センターでは今はないです。栗東では。

ただ県内ではということ、県警の少年課の方から発信としていただいています。

ただ、何百件もあるとかではなく、数十件という話です。

(委員長)

ありがとうございました。

よく存じあげているタレントとかスポーツ選手が、取りあげられるとすごくショックな部分がありますね。本当に子どもたちを守る、青少年を守るという意味で、こういう事件が多発しないことを願っております。栗東市ではないというのでほっとしています。

(生涯学習課)

先ほどのご意見を受けての話ですけど、私ども生涯学習課もお題目で、「いつでも どこでも だれでも いつまでも」とのことで、子どもから高齢者まで、すべてをターゲットにすることはもちろん前提としてはあるのですが、先ほどのご意見の中で、もっと高齢者とか、働き盛りの人ということで、私どももあえて子ども対象にしているような事業もございますし、高齢者の方を対象にしているようなはつらつ教養大学のような講座もしています。

先ほどの説明の中でも少し触れさせていただきましたが、税金のことで講座をさせていただいたら、意外に若い30代40代ぐらいの方が、結構来ていただきました。

その前にここには載せておりませんが、相続のことで、若い世代の方や働き盛りぐらいの人がもちろん土日に開催してですけど、来ていただきました。切り口によっては、働いておられる方とか、30代40代の方も自分でSNSなどで今は調べようとするならいくらでも調べられる時代ですので、私どもの講座に来なくても勝手にやる人もたくさんいると思いますが、テーマによっては、来ていただけるというのも私ども体験としてわかってきた部分がございますので、その辺りを工夫を重ねて、子どもと高齢者だけではなく、そういう働き盛りの人にも来ていただけるような講座も、今後もいろいろチャレンジする中で、見つけ出していきたいと考えております。

(委員長)

ありがとうございました。

他、各課から、ないでしょうか。

委員の皆様も、これだけはもう少し聞いておこうかなというのがございましたら。

(委員)

7ページの青少年育成団体事業の、栗東市少年少女発明クラブについてなんですが。

発足したのが10年以上前だと思うのですが、そののちどうなって、今何人ぐらいいらっしゃるのか、年齢層はどうかとか、それから支援も行ってくださるので、どんなことを発明されているのかが少し疑問になりました。

他のPTAの連絡協議会とかガールスカウトかは、大体よくわかるのですが、そののところをもう少し詳しくお話していただけたらなと思います。

(生涯学習課)

少年少女発明クラブですが、上砥山にある県の施設である工業技術センターの方で実施をさせていただいておりまして、コロナ以前につきましては、2つのコースで実施しておられます。小学校の4年生から中学校3年生まで基本コースと応用コースみたいな形で実施をされておられまして、それ

それ人数をそれなりに見ていただいたのですが、コロナ以降中止のときもありましたが、今年度は1つのコースで、また、人数を絞って、今日資料を持ってきておりませんので申し訳ないですけども、20人はいってなかったと思います。16、7人ぐらいだったと思うのですが、月1回ぐらいのペースでものづくりを実施しておられるというふうな状況でございます。

(委員)

ありがとうございました。

私の近くにこのようなことが好きな子がおられて、「こんなん知ってるか」って言ったら、「知らない」という話になっていて、先ほどの話もあったのですが、そのPRというかお知らせの方法はどうなっているのかなと思います。

(生涯学習課)

こちらの方につきましては、補助金を出して支援をさせていただいておりますので、呼びかけをどのようにされているかというのは、今現在は存じかねるところでございます。

ただ、話を聞いておりますと、昔は各小学校や中学校にチラシを一度、市の方もお手伝いさせていただく中で配っておられたと聞いております。今年はどうされているのかは聞いておりません。

(委員)

ありがとうございます。

学校の方にチラシは行っていますか。

(委員)

チラシではなくポスターです。

(委員)

またこれも大事な活動だと思いますので、そのような、いろんな発信の仕方も考えていただけたらと思います。

それともう1点だけ良いですか。

少年センターの方で、幼稚園の方に非行防止の教室をされるというのはすごくいいと思います。私、人権擁護委員で人権教室の方に行っているのですが、外部の人が来ていただくと、子どもはよく聞いていて、心に残るみたいで幼稚園で1回やって次小学校の2年生でやるのですが、幼稚園にあったことを覚えていたりするのです。

現在この3校3園だけということですが、来年度もっと広げていただいて、今、私立の幼稚園もすごく多くて全部で10園以上あると思うのです。行くとなると大変になりますが、それもいろんな方を募ったら、先ほどの話ではないのですが、ボランティアの方でも紙芝居とかでもいけると思うので、大変にはなると思うのですが、だんだん低年齢化しているので、そのようなことも考えていただけるとありがたいかなというふうに思います。

(少年センター)

今は希望のある園だけにさせていただいて、対象は私立ではなく、栗東市立の公立の保育園、幼稚園とかでやっています。

職員 4 人しか少年センターはおりませんので、補導委員さんもわずかな方をお願いしているのですが、幼稚園とかに行かせてもらうときは、着ぐるみを補導委員さんに着ていただいて、紙芝居使いながら頑張ってやっております。

少しは増やせたらと思います。

(委員長)

ありがとうございます。

本当に貴重なご意見ありがとうございます。

他にございませんでしょうか。

各課も本当に忙しく、人材もなく、小学校の方ももう本当にいっぱい、いっぱいの事業の中で、なかなか地域の方を取り込んで、こんなことさせてやろうと思っても、時間がないようですね。

本当に何て言うのですか、人的なことでも時間的なことで、本当に学校も各課もご苦労されているかと思えます。

でもやっぱり、何かしらに関わってくることはとても大事なことになるので、その貴重な時間を貴重な体験をしながら、みんな成長をしていきたいと思えます。

また小学校の方も、先生が頑張っていたくわけではないのですが、各課はポスターを使っての啓発の部分ですが、他の例えば人権政策課とか環境政策課とか学校の方にポスターを依頼されています。

夏休みの宿題の課題として、私たちが小学校のときは、夏休みの宿題では何か定番のように、自由研究はしないといけない、課題図書は読まないといけない、貯金箱は作らないといけないので、子どもたちにとっても忙しい夏休みだったのですが、今は選択になっていますよね。

ポスターも、例えば環境政策課の方から、自然環境を守るポスターを依頼していただくのですが、子どもたちがこのチョイスしていくっていう、昔とは変わってきた学習体系が、これがいいとか悪いとかではありませんが、今のポスターを書く専門的なことではなくて、絵の好きな子以外が描くの嫌だとか、読書感想文書かなければいけないときはいやいや読んでいたのですが、書かなくてもいいのなら本読まなくてもいいと。何かそんな感じになってきているのが、寂しいなとか思いながら、自然観察の森にしても図書館にしても、多分行っている子どもは同じ子じゃないかなと思えます。

いろんなことに興味を持つ、挑戦する、そういう子たちって、何か事業も提案していただいたら飛びついてくれるのですが、やらないと本当にやらないし、行かない子は行かないし、目も向けてくれないです。でも、そんな子どもたちって先ほどおっしゃってくださった、もう年齢を超えて、いろんな方に目を向けていただく、来てもらって何ぼの世界ですから、体験してもらったりとか経験してもらったりとかで、積み重ねをしていくという、これをPRの仕方、アピールの仕方、啓発の仕方が本当に大きな問題となってきますけど、先ほども申しあげましたように、飛びついてもらう事業が大事です。

今の夏休みの宿題もそうですが、全部やる子は全部やっていると思えます。

3つ以上って言われたら、10個ぐらいやっている子もいると思うのです。

やっぱりそういう挑戦する、意欲的な力を育むというのが、本当に幼少期からの積み重ねだと思いますし、私は「何やってるの」って聞かれたら何もやっていません。でも本当にワクワクしながら、いろんな事業に関わらせていただきたいなと思っておりますので、また各課の皆様、楽しい事業の展開をよろしくお願ひしたいと思ひます。

そんな中でも少年センターはわくわくばかりではなく、守っていかなければならない部分もありますので、難しいかと思ひますけど。

栗東市が生涯学習の都市で、本当にここに住んでよかったなって思える栗東市に成長していただきたいし、私たちも関わっていきたくと思ひますし、よろしくお願ひしたいと思ひます。他に何もご意見、ないようでしたら、もう時間もだんだん迫ってきておりますので、よろしいでしょうか。

では今年度のこの報告、これをもって皆様の承認とさせていただきますと思ひます。よろしいでしょうか。

以上をもちまして、第2回、社会教育委員の会議を終わります。

皆様のご協力を、議事進行が円滑に進行して、さらに、貴重なご意見をちょうだいいたしまして、本当にありがとうございました。

(事務局)

その他

- ・生涯学習まちづくり講座のお知らせ

5. 閉会あいさつ 奥村副委員長